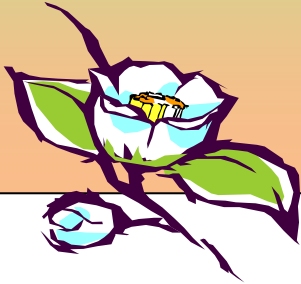




志木中だより



12月号 平成28年12月1日

志木市立志木中学校

志木市柏町3-2-2

TEL048-471-0143

教育はやはり“バランス”が大切！ 校長 飯田 寛

長かった2学期も終わりに近づいてきました。季節は早師走、何かとせわしない時期です。2学期のまとめをしっかりとやり、同時に今年度の来し方を振り返りながら来年に備えたいと思います。



私ごとで恐縮ですが、毎年戸田市の公民館で、市民大学講座の一環として古典文学講座を担当しています。今年で3年目になりますが、受講生は40代から70代（とおぼしき）と大変幅広い年齢層です。そうした幅広い多様な方々に講義をするというのはとても難しく、どこを基準にしてよいか迷うこともあります。何よりも受講生の皆さんの熱心さや意欲に助けられて、毎回私自身が楽しく学び、お話をさせていただいています。

去る11月18日にPTA主催の家庭教育学級にて「思春期のやる気スイッチ」を入れる方法について講演された大塚隆司先生とお話しながら、「やる気」とは結局コミュニケーションやよりよい人間関係から生まれるとともに、自分の内側に向かう気持ち（自己分析と自己肯定）も大切なことがわかりました。人はいくつになっても好奇心をもち、学ぶ楽しさを味わえるものです。講座を担当しながらもそのことを強く感じています。

五つ教えて三つ褒め、 二つ叱って育てとや

昔からよく言われる子育ての“極意”です。この言葉には、「教える」と「褒める」と「叱る」とそれぞれのバランスが書かれています。また、「怒る」のではなく「叱る」ことが大切なのだという示唆も含まれています。人間は、大人でも子供でも褒められればうれしいものなのです。が、やたらめったらいい加減に褒めることに私は疑問を感じます。その子の言動や考えに対して、それをよく見極めたうえで具体性をもった褒め方でなければ中学生は納得しないでしょう。そのための洞察力が必要になってくるわけです。

教育は最終的にはバランスです。褒めることと叱ること、厳しさと優しさ、剛と柔、動と静・・・どちらか一方だけではうまくいきません。人生も同様、苦と楽、仕事と家庭、公と私、繁忙とゆとり、緊張と弛緩・・・バランス良く生きたいものです。



師走の気ぜわしい季節になりますが、心身ともに豊かによりお年をお迎えください。2学期もありがとうございました。



志木中だより

1月号 平成29年1月10日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

“強さ”より“しなやかさ”を！ 校長 飯田 寛

新年明けましておめでとうございます。

平成29年の幕開けと同時に、学校は平成28年度第3学期、今年度のまとめの時期となります。1年のうちで寒さが最も厳しい季節となりますが、心身ともに凜として進んでいきたいと思えます。変わらぬご支援・ご協力の程お願い申し上げます。

年の初めは、とかくその1年の自分の行く末に思いを馳せ、あれこれ目標を設定しますが、今の時代は先行きが不透明で、いつ何が起こるか見当がつかない状況です。従って、今は落ち着いている学校も、明日はどうなるかわかりません。どんな問題が起こるのか、予想ができないのです。だから、私はいつも「何が起きようと、その場その場で、臨機応変に対応しよう。」と考えています。こう言うと無責任で能天気なようですが、確固たる信念・方針のもと、こういう場合はこうする、という強い決意は、一見いいようで実は柔軟性に欠ける部分を含んでいます。鉄のような強い意志も時として大事ですが、今の時代には一見弱いようでもどんな事態にも対応できる心身のしなやかさ・柔軟性の方がより大切だと思うのですがいかがでしょうか。

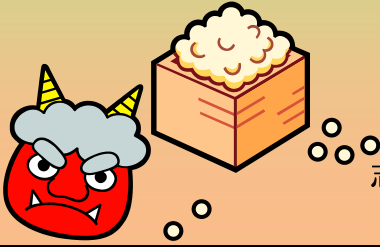
「養生」という言葉をほとんど聞かなくなりしました。体の不調は即病院に直行という時代です。また、熱が出れば解熱剤、下痢には下痢止め、頭痛には鎮痛剤・・・という具合に対症療法のみが横行しています。そして、実のところ悲鳴をあげているのは体自身です。

「養生」とは、自分で自分の体の声を聞き、不調を感じたら自分自身で体調を微調整する知恵です。例えば、台所にある食材一つとっても工夫次第で体を温めたり、気分を良くしてくれるものが沢山あります。また、症状に直球で作用する西洋薬よりも体全体に作用する漢方薬の方が体にとってよい場合もあるでしょう。

この「養生」の知恵や対応は、実は教育にとっても大きな示唆を与えてくれるのです。常にその子の全体をみること、起きている問題の本質をとらえ、対症療法ではなく全体療法を考えること、ものの見方や感じ方に焦点を当て、心の根・感性を豊かに耕すこと、そして病気にならない体質づくり、これからの時代を生き抜くしなやかな強さを育てること等々・・・人を育て、生きるヒントが多々隠されていると思っています。



志木中だより



2月号 平成29年2月1日

志木市立志木中学校

志木市柏町 3-2-2

TEL 048-471-0143

URL <http://www.shikichu.ed.jp/>

「大人に近づく」ということ 校長 飯田 寛

新年が始まったと思ったらもう2月！まさしく「1月は行く」そして、2月もあっという間に「逃げる」、3月はあれよあれよという間に「去る」のでしょう。3学期はまことにせわしなく、落ち着かない学期です。でも、一番大切な学期であることも事実です。どんな時でも、中学生は一步一步「大人」に近づいています。いや、「大人になって」います。この「大人になる」とはどういうことなのでしょう。また、「本物の大人」とはどうなることなのでしょう。

現在志木中は、生徒指導面では大変落ち着いています。非行・問題行動はほとんどありません。しかし、目を凝らして見ると友達同士のいさかい・トラブルが発生しています。ラインやメールにおける誹謗中傷・仲間はずし、不確かな情報や噂を安易に広める、不適切な言葉により相手を傷つけること等々・・・です。そして、これら問題の原因の一つは「安易で不用意な言葉の使い方や表現の仕方の未熟さ」によるところが共通しているように思われます。子供も大人も現代人は、言葉に対して自分本位・自己中心的、言語感覚が錆びていると言わざるを得ない状況です。

良識ある、「本物」の大人の言葉について考えてみましょう。私は、次のように日頃から考えています。

- 大人は落ち着いた声と態度で話す。
- 大人は考えながらしゃべる。「立て板に水」の如く話すのは何も考えていない人である。早口は自信のない証拠である。
- 大人はあいまいな言葉を使う。「論理」は攻撃的である。洗練された言葉は必然的に婉曲になる。
- 大人は言葉を「包む」。「包む」は「慎む」に通じる。生のむき出しな言葉は人を傷つける。「正論・論理」も同様である。
- 大人は、敬語のたしなみを知っている。
- 大人は相手に言葉を「届ける」。未熟な人間ほど相手に言葉をぶつける。
- 「言ってはいけないこと」を知るのが大人である。・・・・・・・・等々

生徒は日々大人に近づいています。が、それは体だけではなく、言葉＝心情・心も大人にならなければなりません。大人が「本物」の大人になって子供を後押ししましょう。尤も、最近はいつまでたっても大人になりきれない「子供のよう大人」が増えつつあり、世のトラブルの要因の一つになっていますが・・・・・・・・。

